

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑮ 道路環境

[将来像] 安全で環境に配慮した道路環境が整っている

基本施策 34 安全で快適な町道の確保

基本施策がめざす姿

- 町道の安全性・快適性が確保されています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
道路の整備に対する満足度	33.8%	50%	町民アンケート

現状と課題

- 道路の整備に対する満足度については、当初のめざそう値は町民の皆さんのご理解ご協力により令和元年度に達成しました。今後も引き続き安全で快適な町道の確保に努めていきます。
- 町道は、令和元年度末現在で路線実延長が約 153 km、舗装率は約 83%となっています。
- 車両が円滑に通行できる道路環境が求められると同時に、歩行者等の安全確保を図っていくことが必要です。

基本方針

- 町道を整備するとともに、適切な維持管理に努めます。

具体的な取り組み

単位施策	34 - 01	町道の整備・維持管理
------	---------	------------

だれもが利用しやすい道路環境や車両の円滑な通行など、様々な面に配慮しながら、町道の整備・改良を進めていきます。また、快適な道路環境を維持するため、適正な維持管理に努めます。

単位施策	34 - 02	道路交通の安全確保
------	---------	-----------

歩行者等の安全な通行を確保するため、交通安全施設・設備の設置や維持管理を行います。

協働でできること

- 町は、町民や町民活動団体との協働により、道路環境向上のため、道路清掃等の取り組みを推進します。
- 町民は、側道線の摩耗など、道路（歩行者）安全上支障をきたす箇所を町役場へ連絡するなど、情報提供に積極的に取り組みます。



町道（水源地橋周辺）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

※関連する個別計画は、162 ページ

施策分野⑮ 道路環境

【将来像】 安全で環境に配慮した道路環境が整っている

基本施策 35 適切な橋りょうの維持管理

基本施策がめざす姿

- 町内の橋りょうの維持管理・修繕が適切に行われています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
「葉山町橋りょう長寿命化修繕計画」に基づく修繕橋りょう数	10	21	

現状と課題

- 町が管理する橋りょうは令和元年度末現在で68橋あり、今後、老朽化に伴う維持管理費用はますます増大することが予想されています。
- 町では、平成31年3月に、予防保全の管理に力点を置いた「葉山町橋りょう長寿命化修繕計画（第二期）」を策定し、補修の必要性等の調査や、必要な補修事業を進めています。今後も、既存の橋りょうの適切な管理に努めるとともに、財政状況を考慮しながら計画的な修繕を進めていく必要があります。
- 「葉山町橋りょう長寿命化修繕計画」に基づく修繕橋りょう数については、当初設定しためざそう値は財源制約の中で達成することができませんでした。今後は、日々の点検に基づき優先順位を明確にし、少しずつ着実に維持補修に努めます。

基本方針

- 「葉山町橋りょう長寿命化修繕計画」に基づき、適切に橋りょうの維持補修を行います。

具体的な取り組み

単位施策	35 - 01	橋りょうの予防保全型管理の推進
------	---------	-----------------

「葉山町橋りょう長寿命化修繕計画」に基づき、定期点検と補修を繰り返し行い、安全性・信頼性を確保しつつ、費用の縮減と平準化を図りながら寿命を延ばしていく予防型の維持管理を行います。



しゅめりょう橋（下山口地区）



木古庭橋（木古庭地区）

基本目標 7

だれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているまち

施策分野⑩ 公共交通環境

[将来像] だれもが使いやすい公共交通環境が整っている

基本施策 36 公共交通の環境整備

基本施策がめざす姿

- 通勤や通学、また観光などで葉山を訪れる人など、だれもが使いやすい公共交通環境が整っています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
公共交通の利便性に不満をもっている町民の割合	30.2%	0%	町民アンケート

現状と課題

- 町には、鉄道がなく、JR逗子駅、衣笠駅、京浜急行逗子・葉山駅、汐入駅と町内を結ぶ路線バスが重要な交通手段となっています。多くの路線が1時間に2～6本程度運行しており便利ですが、道路渋滞による遅延の緩和やバス停から離れた地域の利用環境の向上が課題となっています。
- 路線バスの利用が不便な地域や、高低差があり高齢者のバス停までの移動が困難な地域の町民からの要請等により、事業者に対し、路線バスの新規路線の開設や運行本数の増便などの要望を行っていますが、運転員の不足や経営上の採算面などから、実現は大変難しい状況です。
- 今後、主要な公共交通である路線バスと新たな交通手段を組み合わせた町の交通計画の策定に向けて、関係者との協議の場を設けることが求められます。

基本方針

○ 周辺自治体、事業者との連携、協力により、公共交通の利便性の向上に努めます。

具体的な取り組み

単位施策	36 - 01	バス路線の充実
------	---------	---------

運行本数の維持を原則とし、ニーズを踏まえながら状況に応じて、バスの新たな運行路線や増便を事業者に対して引き続き要望していきます。また、JR逗子駅や京浜急行逗子・葉山駅周辺のバスの円滑な運行に向け、近隣自治体、事業者と連携し、方策を研究していきます。

単位施策	36 - 02	バスの利用環境の向上
------	---------	------------

主要なバス停へのベンチ、屋根の設置等、利用環境の向上に向けた取り組みを関係機関とともに進めます。併せて、バスベイの整備についても、機会を捉えて関係機関へ要望します。

単位施策	36 - 03	交通計画策定に向けた取り組み
------	---------	----------------

バス停から離れた地域などの地域交通の利便性を向上させる手段として、新たな交通手段の検討、導入を図るために交通事業者や関係機関との協議の場を設置し、交通計画の策定に向けた検討を進めます。

協働でできること

□ 町は、渋滞緩和、温室効果ガス排出削減や地域交通の利便性を向上させる手段として、新たな公共交通機関の導入について、地域住民と検討します。



葉山小学校前バス停

施策分野⑰ 町内産業

【将来像】 地域産業が「葉山」というブランド力と結びつきながら、活発に活動している

基本施策 37 農業・水産業・商業の振興と連携の促進

基本施策がめざす姿

- 各産業間のつながりが深まることで、葉山の製品の魅力の相乗効果が発揮され、生産者の所得向上につながっています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
直売施設利用者数	678,662 人	680,000 人	各直売施設への聞き取りなど
新規就農者数（親元農家を除く）	3 人/年	4 人/年	
新規創業者（創業）数	19 者/年	20 者/年	

現状と課題

- 農業は、野菜や果実、米作りが行われ、収穫物は加工品も含めて朝市や「ハマステーション」での直売、スーパーや飲食店等への直販、JAでの共同販売や自家消費などとなっていますが、生産者の高齢化に伴う後継者問題と休耕地の増加が課題となっています。また、「葉山牛」はブランド牛として広く認知されていますが、今後は消費者ニーズを踏まえた肉づくりに係る肥育法の研究と消費者拡大が課題です。
- 水産業は、いわし類、海藻類、貝類などを中心に漁獲していますが、資源の減少も進んでおり、稚魚や稚貝の放流を通じた作り育てる漁業の推進を図っていくとともに漁業の継続を支援する必要があります。
- 小売業などは減少傾向にありますが、老舗店舗などにより培われたイメージに魅力を感じ敢えて葉山に出店する店舗も多くあります。このような葉山ブランドが引き継がれるように、農業・水産業・商業が補い合う仕組みづくりが求められます。

基本方針

- 葉山ブランドの力を活かした産品を軸に、農業・水産業・商業が連携し、持続可能な産業づくりをしていきます。

具体的な取り組み

単位施策	37 - 01	新たな担い手の確保
------	---------	-----------

親元農家だけではない新たな就農者の確保に繋がる制度を広く周知します。また、休耕地から耕作地に戻すための支援策を検討します。

単位施策	37 - 02	つくり育てる漁業の振興
------	---------	-------------

資源の増殖を図るため、漁業協同組合に対し、漁業の育成、稚魚・稚貝の放流などを支援していきます。

単位施策	37 - 03	葉山らしい“お店”が作る町のイメージアップ
------	---------	-----------------------

町内の小売店、飲食店の情報を的確に発信することで、葉山ブランドを意識して移住、起業する事業者を商工会と連携し支援していきます。

単位施策	37 - 04	葉山ブランドの発展
------	---------	-----------

肉質の良い「葉山牛」の肥育に係る研究や消費者拡大に向けた取り組みなどの支援を継続します。

漁業従事者が安定した所得を得るため、魚価が向上するよう支援します。

地域産品の販売拠点となるハマステーションや朝市、地域特産品の開発拠点となる朝市農産物加工所の運営などの支援を継続します。

協働でできること

- 町は、農業協同組合、漁業協同組合、商工会をはじめ、町内の各種団体・事業所との協働により、研究開発、イベント・販売促進活動の展開、販売環境づくりを進めていきます。

基本目標 9

地域の魅力が住んでいる人や訪れる人を惹きつけているまち

施策分野⑩ 観光の振興

〔将来像〕 葉山の魅力が十分に発信され、ゆったりとした時間が流れるような観光スタイルが整っている

基本施策 38 観光の振興

基本施策がめざす姿

- 恵まれた自然と一体となった様々な町民の営みが地域の魅力となり、多くの人が葉山を訪れています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (令和元年度)	めざそう値 (令和6年度)	備考
町の魅力発信サイト 「はやま life*」のアクセス数	5,775 件/月	6,650 件/月	

現状と課題

- 葉山町は首都圏の保養地として知られ、美しい海岸線や緑などの豊かな自然をはじめ、美術館やレストラン、町並みなどを楽しみに観光客が訪れています。
- 来訪者が将来的な移住者候補となることを想定し、町並みや地域のイベント等、住民が感じている葉山の魅力を伝えるなど、近隣市をはじめ首都圏在住者をターゲットにしたPRが必要です。
- 町には発信力のある著名人等が多く住んでおり、またメディアに取り上げられる機会も多くあります。これらの個人やメディア、さらには近隣自治体とつながって有機的にプロモーションすることが効果的です。
- 一部のマナーが悪い観光客により、住宅地でのごみの不法投棄や話し声の騒音などが恒常的に苦情として寄せられ、観光客がもたらす交通渋滞も課題となっており、こうした問題の解消が急がれています。

基本方針

- 町並み、地域イベントなどの地域資源を活用し、町民生活と一体となった観光振興を図ります。

具体的な取り組み

単位施策	38 - 01	葉山らしいライフスタイルの発信
------	---------	-----------------

案内看板、ガイドマップ、ホームページなどを相乗的に作用させることで、町を訪れる方が町民目線で葉山を感じられるようなメッセージを発信します。

これにより、ゴミの不法投棄などについて、来訪者が自分事としてとらえる機運を醸成し、将来の移住促進に繋がります。

協働でできること

- 町は、町民、「観光協会」、「まちづくり協会」及び「商工会」などの各種団体と協働して、地域イベントを継続開催し、地域活性化を図ります。

